

第3分科会

学生エンゲージメントと自立を促す支援としあげ ～学生に関わる専門職の立場から～

報告者

清水 栄子 追手門学院大学 基盤教育機構 准教授

杉原 保史 京都大学 学生総合支援センター／カウンセリングルーム センター長／教授

家島 明彦 大阪大学 全学教育推進機構 講師／キャリアセンター 副センター長

コーディネーター

山田 剛史 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授

本分科会では、大学における学生エンゲージメントと自立を促す支援としあげについて、アカデミック・アドバイジング（学習・大学適応）、心理カウンセリング（心理・発達）、キャリアサポート（進路選択）といった3つの異なる専門的立場から報告・検討を行う。それぞれの取組の中で、学生と支援者とがどのように関係性を構築していくのか、そこでの関与の質やダイナミクスを学生エンゲージメントの視点から捉えてみたい。

最終的には、参加者それぞれが日常的に遭遇する授業やゼミ、様々な支援の場面における学生との関わり方の現状や問題点、解決策などについて共有・検討を行う。

〈第3分科会〉

学生エンゲージメントと自立を促す支援としあげ ～学生に関わる専門職の立場から～

京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授 山田 剛史

I 企画の趣旨

本分科会では、大学における学生エンゲージメントと自立を促す支援としあげについて、アカデミック・アドバイジング（学習・大学適応）、心理カウンセリング（心理・発達）、キャリアサポート（進路選択）といった3つの異なる専門的立場から報告・検討を行う。それぞれの取組の中で、学生と支援者とがどのように関係性を構築していくのか、そこでの関与の質やダイナミクスを学生エンゲージメントの視点から捉えてみたい。最終的には、参加者それぞれが日常的に遭遇する授業やゼミ、様々な支援の場面における学生との関わり方の現状や問題点、解決策などについて共有・検討を行う。詳細は、この後の発表スライドを参照。



II 構成

分科会の構成は以下の通り。前半（午前の部）は、コーディネーターによる趣旨説明の後、3名の登壇者からの事例紹介を含む発表を聞く。後半（午後の部）は、午前の内容を踏まえつつ、2つの「お題」に関するグループワークを行い、今回のテーマに対する考え方と実践方法を共有・検討する。

＜午前の部＞

10:00～10:20	趣旨説明（山田）
10:20～10:50	発表①：清水栄子（追手門学院大学 基盤教育機構・准教授）
10:50～11:20	発表②：杉原保史（京都大学 学生総合支援センター・センター長／教授）
11:20～11:50	発表③：家島明彦（大阪大学 全学教育推進機構・講師）

＜午後の部＞

13:30～13:50	WS の概要説明（山田）
13:50～14:50	グループワーク
14:50～15:10	発表・コメント
15:10～15:30	まとめと振り返り

III 発表内容の要約

各登壇者から発表された内容の要約は以下の通り。各発表の詳細は、後に掲載されている資料を参考にしていただきたい。

(1) 「学生エンゲージメントと自立を促す支援としあげ～アカデミック・アドバイジングの場合～」 (清水先生)

清水先生からは、まず、米国におけるアカデミック・アドバイジングの概要について紹介された。その主たる目的は、「学生本人による学習目標の設定と達成を支援すること」であり、その内容は多岐に渡り、時期も入学時のみならず、入学後の高年次にかけても支援の対象が広がっている。

次いで、まだ取組の進んでいない日本におけるアカデミック・アドバイジングの現状について報告された。学修支援に関わる担当部署は複数存在するものの、専門的に扱う専門家や専門部署はほとんどない。具体的な事例として、まず、愛媛大学におけるスタディ・ヘルプ・デスクの取組が紹介された。特に、「スタディ・

アドバイザー」と称される大学院生7名に対するアンケートの結果から、支援学生のエンゲージメントと自立を促すポイントを得ることが出来た。他にも、立命館大学における自立と成長を支える組織的取組である“Student Success Program”について、金沢大学におけるアカデミック・アドバイジングの取組について紹介された。最後に、追手門学院大学における入学前教育プログラムについて、動画を踏まえながら具体的な取組内容が紹介された。専門部署・専門家といつても、指導・助言を主とするのではなく、伴走者として対象学生自らが考え、動き出せるようにサポートすることが重要ということが随所で指摘されていた。

(2) 「学生相談の現場から豊かに悩む能力の育成」(杉原先生)

杉原先生からは、長きにわたり心理カウンセラーとして学生と関わってきた経験を踏まえながら、現代の大学生の特徴や豊かに悩む力を育てるための方法などについて紹介された。まず、学生相談室の現状として、「カウンセラーとの信頼関係を築きながら内面の探索を深めていくといった伝統的心理支援から、関係調整や生活スキル、対人スキルに関わる常識的な指導」へとシフトしているといったこと、「サイコロジカル・マインドやメンタライジング能力が未発達な学生」が増えていること、「教員・親から専門家のアドバイスを求められることが多くなった」ことなどが報告された。

次いで、従来、疾風怒濤という言葉で表されてきた青年期の特徴とは裏腹に、「悩まない・悩めない学生」が増えているということも指摘された。ただし、その問題を生じさせる原因の一つとして、「大学は青年にじっくり悩む時間を与えていない」といった点を挙げていた。最後に、豊かに悩む力を育むために、大学側は「安心感のある環境を保証すること」「豊かに悩めるよう助けること」について紹介された。悩むことはエンゲージメントである、といった指摘が印象に残っている。

(3) 「大阪大学におけるキャリア教育・支援の取組事例～学生エンゲージメントの観点から～」(家島先生)

家島先生からは、大阪大学におけるキャリア教育・支援の取組について紹介された。まず、大阪大学におけるキャリア教育・支援に関する体制・業務内容などについて触れた後、キャリア教育として実施している授業（現代キャリアデザイン論）における工夫について紹介された。シラバスに過去の受講生の声を掲載したり、ICTを活用したり、学生らに簡単な授業の動画作成を課したり、各回趣向を凝らして学生のエンゲージメントを高める工夫が散りばめられていた。何より、教員自身が楽しみながら授業を作り、実践していることが伝わり、学生のエンゲージメントを促すにはこれが最も重要な要因であると感じている。その後、十分な時間は取れなかつたが、キャリア支援として阪大における進路・就職相談の動向やピア・サポート制度（大阪大学キャリアセンター）についても盛り込んでもらった。

IV グループワーク

午後は、午前中の発表内容も踏まえながら、大きく2つの「お題」に基づくグループワークを行つた。1つ目は、「学生への教育・指導において困っていること、難しいと感じていることは何でしょうか」という問いかけについて、ピア・カウンセリング形式で相互にお悩み相談を行つた。2つ目は、「学生のエンゲージメントと自立を促すために、どのようなことが出来るでしょうか?～a.大学（制度・環境）として、b.教育（授業）の場面で、c.授業外（指導・日常）の場面で～」という問い合わせについて、グループ内で議論した内容をワークシートに落とし込んでもらつた。グループで検討された内容について、ICTツール（Mentimeter）を用いて、全員で共有し、登壇者らよりコメントを加えながら、総合討論を行つた。その内容の一部は、以下の通りである。



Q2a 大学（制度・環境）として

Mentimeter

学生FD活動やピアサポート、学生支援の活動にTAないSAと何がくらいの頻度で対応する。活動成果が成績や学年取扱いにつながる仕組みを設けてはどうか。学生活動を行なう場所（部室の）のようなもの？をきちんと審査する。

支援を継続的に実施できる
よう教職員の仕事の質や適正性
を担保するため、教職員倍増計
画を合めた教職員を守るシス
テムを作る。

FDフォーラムのようなイベントに参加し、いろんな大学の意見を自身の大学に反映させる。学生スタッフを取り入れて、大学の運営に学生が参加する。また、その意見を取り入れる。

学生を大学の教育活動に参与させような「ピア・サポート制度」を卒業要件(DP)に書き入れること。

入試制度改革。

学生に関する情報共有と学生からの教職員に対する連絡相談方法をシステム化する。

学生の悩みに応じた相談相手を探すことができるシステムを作る。

教職員が学生との親密な関係を作り出すための環境整備(人材の確保・配置、無証な作業の削減など)

物理的にも、心理的にも不足している学生の居場所確保

18

Q2b 教育（授業）の場面で

■ Mentimeter

・学んだことを落とし込むために取り組ませるしかけられません(心理鍛錬の最後など)・失敗の慶應(シラバスを並べる工夫)・見ておかなぐちに「四面立て式」かわらない・失敗範囲は三分の二で見当たさないでつい失敗する・うつうのて・何をもたらすか?・適度な凹凸を出すことで機会を營む・努力する・限られた時間で効率良く仕事をこなす・しないために、自分自身を評価し、昇進賞を獲得する意欲とモチベーションをもつておこなう・手作りで書くことを喜ぶ!

90分の間にインプットとアウト
プットの両方ができる授業内
容・時間配分

シラバスが一方的なので、ある程度の枠組みで学生の意思反映させる、または学生意思を尊重するものにできればいいと思う。双方向性

授業内でのグループディスカッションやクリティカルシンキングなど発表の機会を与えるとともに、授業に対する学生からのフィードバックが得られるようになります。

学生が授業をプレゼンし、履修学生から評価をもらい、それを踏まえて重ねて学ぶ

そこでしか休憩できること、得られないことを授業に必ず取り入れる。来たくなる授業、「たのしい！」と純粹に感じる授業を行う。

アクティブラーニングでバランスよく役割を振れるように工夫する。個々の役割を変更させるなど

学習到達目標を低目に設定し、評価するスパンも短くすることにより、遅れている学生をケアし、進んでいる学生は、ほめる

セーフティーネットを完備して、学生のトライアンドエラーを伝証する授業を設計する

12

最後に、登壇された先生方、参加されたみなさまに感謝申し上げます。

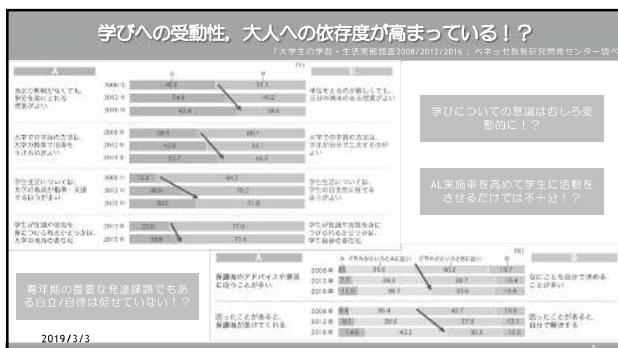
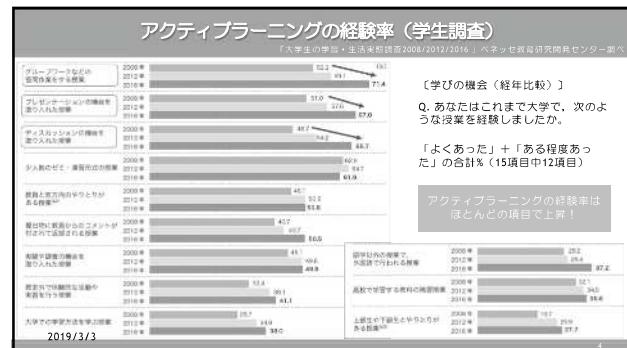
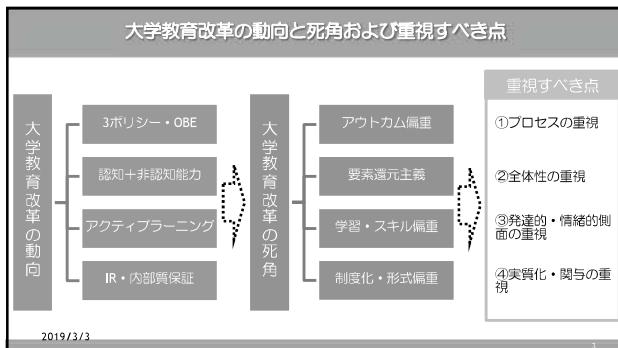
コーディネーター 京都大学准教授 山田 剛史

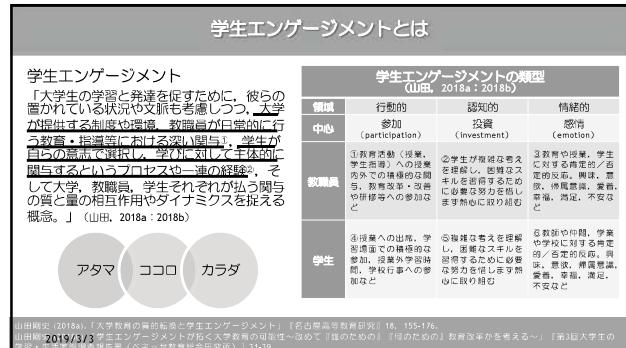
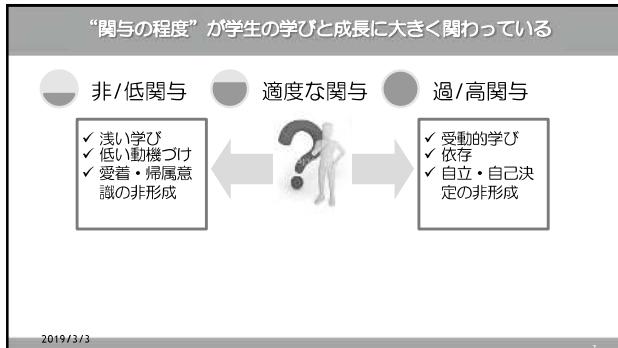
2019年2月14日 (土) 10:00-19:30
2018年度第24回JFDフォーラム「立命館大学

今日の最大の目的は、

“学生のエンゲージメントと自立を促すために、「大学」「正課」「正課外」といった場面で、私たちはどのように「関与」すれば良いのか”

について、省察・共有・創造すること。





本日のスケジュール

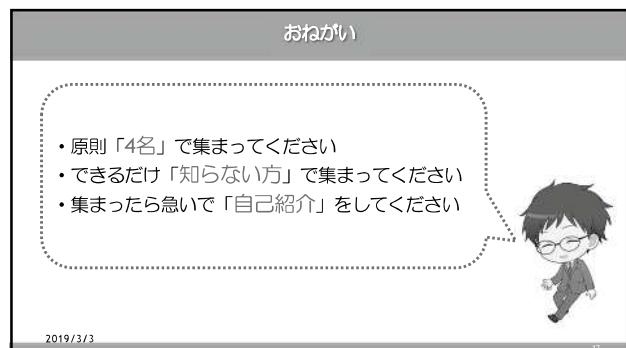
時間	演目・登壇者等	内容・テーマ等
午前	10:00~10:20 (20分) 趣旨説明：山田勝史 10:20~10:50 (30分) 第1発表：清水栄子 10:50~11:20 (30分) 第2発表：杉原保史 11:20~11:50 (30分) 第3発表：家庭昭彦 11:50~12:00 (10分) 質疑応答	趣旨説明 学生エンゲージメントと自立を促す支援としかけ～アカデミック・アドバイジングの場合～ 学生相談の現場から養成力に悩む能力の育成 大坂大学におけるキャリア教育・支援の取組事例～学生エンゲージメントの観点から～ 各発表の後に簡単な質疑（3分程度×3名）を行なう
午後	12:00~13:30 (90分) 休憩 13:30~13:50 (20分) WSの目的および手順の説明（作前の社有会場） 学生への「贈り物」について、個人の特徴や年齢・年次・性別・年齢・性別等の背景情報を参考しながら、どちらかが提示する複数の「贈り物」について、グループ内で検討する。探査した結果を全体で発表・共有し、適宜発表者よりコメントする 14:50~15:10 (20分) 発表・コメント 15:10~15:30 (20分) まとめと振り返り	WSの目的および手順の説明（作前の社有会場） 学生への「贈り物」について、個人の特徴や年齢・年次・性別・年齢・性別等の背景情報を参考しながら、どちらかが提示する複数の「贈り物」について、グループ内で検討する。探査した結果を全体で発表・共有し、適宜発表者よりコメントする グループ内の振り返りと分科会の総括

2019/3/3



後半がはじまります

2019/3/3



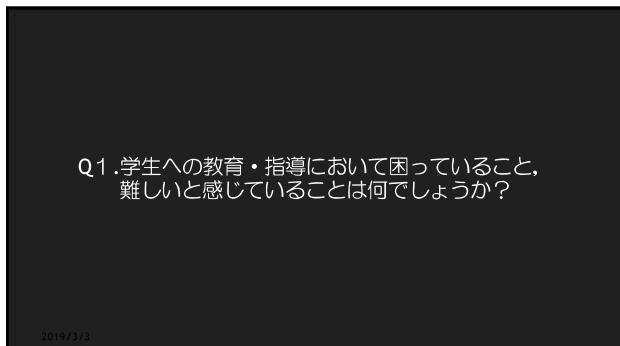
本日のスケジュール		
	時間	演目・登壇者等
午前	10:00~10:20 (20分)	趣旨説明：山田剛史 講旨説明
	10:20~10:50 (30分)	第1発表：清水栄子 ～学生エンゲージメントと自立を促す支援としあげ～ ～アカデミック・アドバイジングの連合～
	10:50~11:20 (30分)	第2発表：杉原保史 学生相談の現場から豊かに悩む能力の育成
	11:20~11:50 (30分)	第3発表：家島明彦 大阪大学におけるキャリア教育・支援の取組事例 ～学生エンゲージメントの観点から～
	11:50~12:00 (10分)	質疑応答 各発表の後に簡単な質疑（3分程度×3名）を行なう
	12:00~13:30 (90分) 景休み	
午後	13:30~13:50 (20分)	WSの概要説明 WSの目的および手順の説明（午前の共有内容）
	13:50~14:50 (60分)	グループワーク 学生への「関与」について、個人の経験を内省・可視化・共有し、午前の発表内容を重ねながら、これらが提示する複数の「問い」について、グループ内で探求する。探求した結果を全体で熱表・共有し、適宜発表者よりコメントする
	14:50~15:10 (20分)	発表・コメント グループ内の個人の振り返りと分科会の総括
	15:10~15:30 (20分)	まとめと振り返り グループ内の個人の振り返りと分科会の総括

2019/3/3

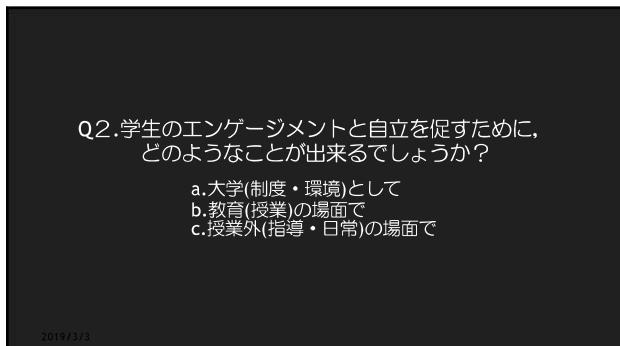
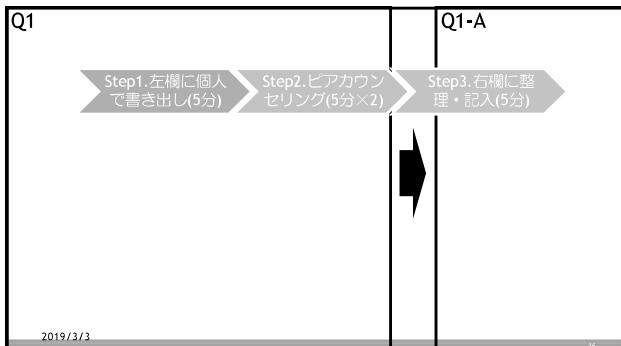
13

午前の振り返りディスカッション		
！「EQトーク」も使いながら、午前中の発表を受けて、フリーディスカッション		
2019/3/3		

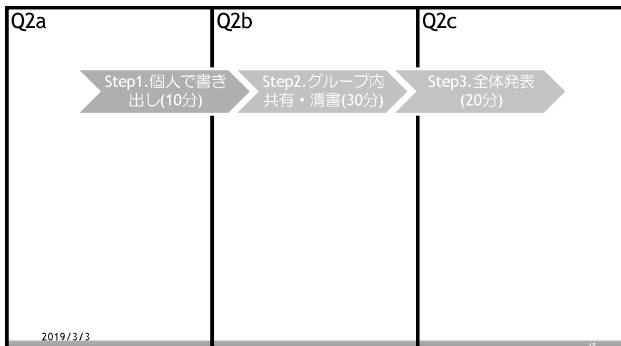
14



2019/3/3



2019/3/3



学生エンゲージメントと自立を促す支援としあげ ～アカデミック・アドバイジングの場合～

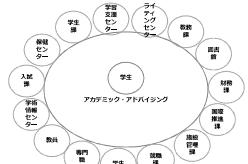
追手門学院大学 基盤教育機構 深教授 清水 栄子

<p>2015年3月1日 第2回国際フォーラム第5分科会 学生エンゲージメントと自立を促す支援としあげ ～学生に開かれる専門職の立場から～</p> <p>学生エンゲージメントと自立を促す支援としあげ ～アカデミック・アドバイジングの場合～</p> <p>追手門学院大学基盤教育機構 清水 栄子 e-shimizu@haruka.otemon.ac.jp</p>	<p>発表内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 米国におけるアカデミック・アドバイジング <ol style="list-style-type: none"> (1) アカデミック・アドバイジングとは (2) 学生エンゲージメントを高めるアカデミック・アドバイジング 2. 日本におけるアカデミック・アドバイジング <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生の不安や悩み (2) アカデミック・アドバイジングとは (3) 学生の自立を促す支援としあげ（事例紹介）
3	2
<p>1. 米国におけるアカデミック・アドバイジング</p>	<p>(1) アカデミック・アドバイジングとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ■目的：学生本人による学習目標の設定と達成を支援する ■組織：センター、学科 ■担当者：教員、専任アドバイザー、ピア（学生）等 ■手段：面談（1対1、グループ）、電話、メール、ワークショップ、Facebook、Twitter etc. ■アドバイザーの加盟団体 NACADA (National Academic Advising Association) 大学の規模、分野、目的等により、組織・実践方法等は異なる
4	3
<p>イメージ（入学～卒業）</p>	<p>(2) 学生エンゲージメントを高めるアカデミック・アドバイジング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生について十分理解する ・適切なアプローチを選択する ・学生との有意義な意思疎通に努める ・学生が成功への道のりを描くことを支援をする ・学生の成功のためにチームによる活動を行う ・正課併行プログラムでの学習機会に結びつける ・様々な経験の機会を探し、学ぶよう促す <p>(De Sousa, 2005 : Kuh, 2006 : Rinck, 2006)</p>
5	5

2. 日本におけるアカデミック・アドバイジング

(2) 日本におけるアカデミック・アドバイジング

学生自身による将来の目的・目標の決定とその達成に向けて、担当者が途中段階のアセスメントを行いながら学生個人のニーズに沿った支援をすること



(第2回アカデミック・アドバイジング・サロンを基に作成)

スタディ・ヘルプ・デスク（愛媛大学）

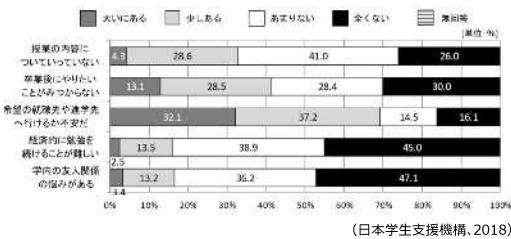
共通教育科目を中心に個別指導を行うほか、勉強の仕方についてもアドバイスを行い、大学での様々な面での学びをサポート

(愛媛大学ウェブサイト)

- ①学生の学力低下や多様な学習ニーズに応える
 - ②勉強がわからなくなり退学する学生を減らす
 - ③学生の声を拾い教員にフィードバックすることにより、学生の声を教育改善に活かす

(学生支援センター阿部先生)

(1) 学生の不安や悩み



(日本学生支援機構、2018)

(3) 学生の自立を促す支援としくみ (事例紹介)

- ・大学院生による学習支援
　　スタディ・ヘルプ・デスク（愛媛大学）
 - ・専門職による支援
　　Student Success Program（立命館大学）
　　アカデミック・アドバイザー（金沢大学）
 - ・学部生による新入生への大学適応支援
　　入学前教育プログラム（追手門学院大学）

特徴と活動概要

大学院生による「スタディ・アドバイザー」

年度	S.A.人数	担当科目 ※マイコアの数字は担当S.A.数（重複担当あり）
2018年度	11名	物理(3)、数学(8)、 化学(1)、情報(1)、 英語(1)※TOEICメイン

〈人選方法〉 学部教員の推薦,
S.A.からの紹介,
T.A.研修での告知

〈応募動機〉 ピアサポート精神、
教職希望者



(写真: 愛媛大学ウェブサイト)

スケジュール（例）

時間帯	月	火	水	木	金
第3時間 12:50- 14:20	数学	数学 物理・数学	化学 レポート作成	数学	数学 物理・数学 生物
第4時間 14:40- 16:10	数学 物理・数学	数学 物理・数学 英語・レポート作成	数学 化学 レポート作成、英語	数学 物理・数学	数学 物理・数学 生物
第5時間 16:20- 17:50	数学 レポート作成	数学 物理・数学 英語・レポート作成	数学 物理・数学	数学 物理・数学 レポート作成、英語	物理・数学 レポート作成
閉室18:00	*相談受付は17:30まで				

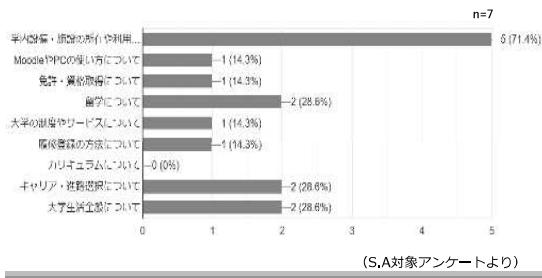
(愛媛大学, 2018) 13



愛媛大学学生支援センター同部先生作成資料

14

担当科目以外での学習相談・情報提供



15

学生対応で工夫していること

- ・聞きたいことを聞いてもらえるように1問解く毎に「何か気になることあった？」と聞いていた。
- ・ゆっくり初めから説明する。
- ・高校物理であれば、身近な現象などを例に出す。
- ・何がわからないのかはっきりさせてから対応した。
- ・何が分かっていないかを、本人に自覚させる。答えではなく、考え方や調べ方を伝える。
- ・学生さんが自分で学習できるサポートをするということを念頭に置いて対応しました。
- ・話を聞いてるだけだと考えなくなると思い、なるべく質問者に話をさせるように意識しました。

(S,A対象アンケートより)

16

学生が学習に積極的になったと感じたこと

- ・「この問題が分かりません。」ではなく、「この問題のこの部分が分かりません。」と、ある程度は自分で考えて質問も具体的になった。
- ・最初はわからない問題を持ってくるだけだった学生さんが、最終的には自分で問題を解いてみて何がわからていないのかを具体的に聞いてくるようになったことです。
- ・以前利用していただいた学生がまた訪問してきた時、前解けなかった問題が解けていること、理解した状態で質問に来てくれたこと。
- ・大学で何を学ぶのかについて、具体的に分かるようになったとき。

(S,A対象アンケートより)

17

学生が積極的になつた（と考える）理由

- ・何が分かっていないかや勉強の仕方が身に付いて、自分で出来る事が増えたから。
- ・SHDでの対応は答えを教えるだけの対応ではなく、何がわからないのかや、どこまで自分で理解しているかなどを聞いてから対応するので、学習の仕方が少しずつわかるようになっているからだと思います。
- ・教えたことを復習し、自分の中で消化してから、質問に来てくれたため。

(S,A対象アンケートより)

18

<p>■日本の大学生は入学時において何を学びたいか、学べるかがハッキリしていない人が多いと思います。そのため、普段の学習が今後の人生に必要になるのかが分からず、モチベーションが低くなるのではないかと思います。実際就活を経験している先輩に自分の学部の強みや、実際どんなキャリアを積むようになるか等の話を聞くと、将来を意識できるようになり勉強のモチベーション向上に繋がるのではないかでしょうか。</p> <p>(S,A対象アンケートより)</p> <p style="text-align: center;">19</p>	<p>Student Success Program (立命館大学)</p> <p>学生「一人ひとり」が正課と課外すべての学生生活を通じて学びの主体として「自立」し、最大限の「成長」を遂げられるようになるための学生支援</p> <p>①正課と課外の両立に困難を抱えている学生への支援 ②クラブ・サークル等の団体の組織運営やマネジメントへの支援</p> <p>一人ひとりが自分に応じた目標を設定し、その到達に向けて、一人ひとりに適したサポートを行う体制</p> <p>(立命館大学ウェブサイト)</p> <p style="text-align: center;">20</p>
 <p>(立命館大学ウェブサイト)</p> <p style="text-align: center;">21</p>	<p>アカデミック・アドバイジング (金沢大学)</p> <p>■対象：総合教育部学生</p> <p>■目的：学生が卒業・進路に向けて充実した学生生活を送れるように支援する履修相談をはじめとした様々な教育活動のことを指します。金沢大学では、学生の学類移行支援を主な目的としたアカデミック・アドバイジングを提供。</p> <p>■担当者：アカデミック・アドバイザー 理系担当、文系担当各1名</p> <p>(金沢大学ウェブサイト)</p> <p style="text-align: center;">22</p>
<p>■具体的なサポート内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修相談：本人の興味・関心、学類移行、履修・卒業要件等を鑑みて個人個人に履修のアドバイスを行います。 ・情報提供：オリエンテーションや授業、個人面談を通して学類移行、履修・卒業要件、その他学生に必要な情報を提供します。 ・学類・他部署との連携：担任教員をはじめ他部署、他機関と連携を取り、協力して多面的な支援を行います。 ・学修支援：セミナーの開催、図書館ラーニングサポートデスクとの連携で学生への学修支援を行います。 <p>(金沢大学ウェブサイト)</p> <p style="text-align: center;">23</p>	<p>入学前教育プログラム（追手門学院大学）</p> <p>■対象 アサーティブ入試、特別選抜入試、指定校推薦入試（一般）、内部推薦入試、スポーツ推薦入試（第1期）、提携推薦入試、追手門ファミリー入試、による入学予定者</p> <p>■目的 自己との対話や他者との真摯なコミュニケーションを通じて、大学入学時から卒業までのイメージに対する理解を深め、本学の教育理念である「独立自彌」と「社会有為」を体現する人材となる基礎を築くこと</p> <p>■日程 2018年3月 6日（火）・7日（水）</p> <p style="text-align: right;">大学適応支援</p> <p style="text-align: center;">24</p>

<p>目標</p> <p>■入学予定者</p> <ul style="list-style-type: none"> ①仲間づくりに求められる、積極的な自己開示をすることができる。 ②自分にとって4年間の大学生活の持つ意味や価値を他人に説明することができる。 ③追手門学院大学での4年間の大学生活プランを計画することができる。 <p>■参加者数：769名／929名（82.8%）</p>	<p>■学生スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①プロジェクトメンバーに対して批評することができる。 ②学習者に対して誠実に向き合うことができる。 ③プロジェクトの進行に合わせて自身に求められる貢献をすることができる。 <p>■学生スタッフ数：133名</p>																								
25	26																								
<p>スケジュール</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">時間</th> <th style="width: 85%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9:45～10:00</td> <td>オリエンテーション（ウェルカムスピーチ・スタッフ紹介・概要説明）</td> </tr> <tr> <td>10:00～10:20</td> <td>アイスブレイク</td> </tr> <tr> <td>10:20～10:30</td> <td>大学と高校の学びの違い</td> </tr> <tr> <td>10:30～11:50</td> <td>自己理解・他者理解WS</td> </tr> <tr> <td>11:50～12:40</td> <td>ランチセッション</td> </tr> <tr> <td>12:40～13:10</td> <td>大学生活プラン作成WS①</td> </tr> <tr> <td>13:10～14:00</td> <td>カタリバ～教えて先輩！～ (休憩)</td> </tr> <tr> <td>14:00～14:10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14:10～14:40</td> <td>大学生活プラン作成WS②</td> </tr> <tr> <td>14:40～15:00</td> <td>大学生活プラン発表セッション</td> </tr> <tr> <td>15:00～15:30</td> <td>全体のまとめ・ふりかえり</td> </tr> </tbody> </table>		時間	内 容	9:45～10:00	オリエンテーション（ウェルカムスピーチ・スタッフ紹介・概要説明）	10:00～10:20	アイスブレイク	10:20～10:30	大学と高校の学びの違い	10:30～11:50	自己理解・他者理解WS	11:50～12:40	ランチセッション	12:40～13:10	大学生活プラン作成WS①	13:10～14:00	カタリバ～教えて先輩！～ (休憩)	14:00～14:10		14:10～14:40	大学生活プラン作成WS②	14:40～15:00	大学生活プラン発表セッション	15:00～15:30	全体のまとめ・ふりかえり
時間	内 容																								
9:45～10:00	オリエンテーション（ウェルカムスピーチ・スタッフ紹介・概要説明）																								
10:00～10:20	アイスブレイク																								
10:20～10:30	大学と高校の学びの違い																								
10:30～11:50	自己理解・他者理解WS																								
11:50～12:40	ランチセッション																								
12:40～13:10	大学生活プラン作成WS①																								
13:10～14:00	カタリバ～教えて先輩！～ (休憩)																								
14:00～14:10																									
14:10～14:40	大学生活プラン作成WS②																								
14:40～15:00	大学生活プラン発表セッション																								
15:00～15:30	全体のまとめ・ふりかえり																								
27	28																								
<p>事前研修の実施</p> <p>■実施主体：学生（総括スタッフ）</p> <p>■回数：全6回+予行演習</p> <p>目的・目標の共有 プログラムに関わる研修（アイスブレイク、カタリバ、ファシリテータ） 全体およびグループ内メンバーによる協働と批評</p> <p>教職員：17名（教員5名、職員12名） 事前・当日・事後の支援</p>																									
29	30																								
<p>活動を通して身についたスキルなど （「とてもそう思う」「ややそう思う」）</p> <p>（学生スタッフ振り返りアンケート：2018年3月実施）</p>																									

まとめ 学生エンゲージメントを高める工夫

- ・学生について十分理解する
- ・適切なアプローチを選択する
- ・学生との有意義な意思疎通に努める
- ・学生が成功への道のりを描くことを支援をする
- ・学生の成功のためにチームによる活動を行う
- ・正課併行プログラムでの学習機会に結びつける
- ・様々な経験の機会を探し、学ぶよう促す
- ・担当者の強みを活用する

参考文献

- De Souza, D. & (2005) *Promoting student success: What advisors can do* (Occasional Paper no. 11), Bloomington, Indiana: Indiana University Center for Postsecondary Research.
愛媛大学 (2018) 「愛媛大学版大学での学び人口」
愛媛大学スチディ・ヘルプ・デスク https://www.ehime-u.ac.jp/campus_life/consultation/help-desk/
金沢大学アカデミック・アドバイシング <https://les.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/総合教育部/アカデミック・アドバイシング/>
Kuh, G. D. (2005) Thinking DEERly about Academic Advising and Student Engagement, Academic Advising Today <https://www.nacada.ksu.edu/Resources/Academic-Advising-Today/View-Articles/Thinking-DEERly-about-Academic-Advising-and-Student-Engagement.aspx>
日本学生支援機構 (2018) 「平成28年度学生生活調査結果」
https://www.jsic.go.jp/about/statistics/gokusei_chosa/_jcsfiles/afieldfile/2018/06/01/data16_all.pdf (2019. 1.20閲覧)
Rindsk, C. N. (2006) Student Engagement and Academic Advising, <https://dus.psu.edu/mentor/old/articles/050528c.htm> (2019.2.1閲覧)
立命館大学Student Success Program <http://www.ritsumei.ac.jp/ssp/>
清水栄子 (2015) 「アカデミック・アドバイシング」 東信堂

学生相談の立場から豊かに悩む能力の育成

京都大学 学生総合支援センター／カウンセリングルーム センター長／教授

杉原 保史

第24回FDフォーラム
第3分科会
2019年3月3日

学生エンゲージメントと自立を促す支援としかけ
～学生に関わる専門職の立場から～

学生相談の現場から 豊かに悩む能力の育成

京都大学 学生総合支援センター センター長
杉原保史

自己紹介

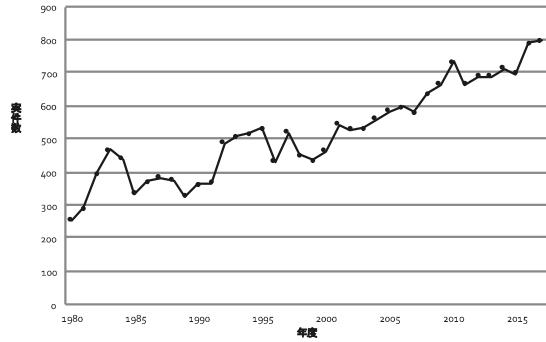
・学生相談の経歴

同志社大学保健センター 1986年～5年間
大谷大学生相談室 1990年～6年間
京都大学学生懇話室 1996年～22年間

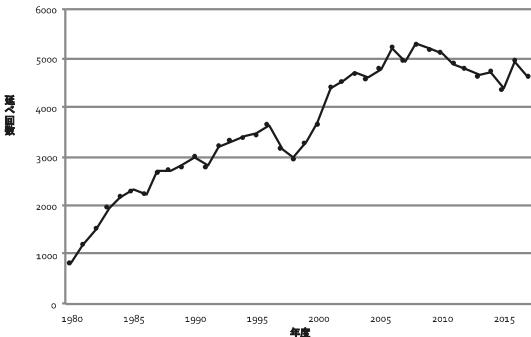
学生相談学会 学生相談機関ガイドライン

- 個別の心理援助
カウンセリング等によって、適応の問題や、学生期の発達にかかわる問題、心理的な問題、キャリアの問題を経験していく、専門家の関与が必要になっている学生を援助する。
- 発達促進的、予防教育的役割
- 教育環境整備への貢献
- 危機管理活動への貢献

京都大学カウンセリングルームの 来談人数の経年的変化



京都大学カウンセリングルームの 面接回数の経年的変化



発達障害、対人関係、うつ…



名大 15年で2.5倍 窓口ピンチ

大学生の悩み相談急増

2017年
12月15日
毎日新聞
夕刊



学生相談のあり方、組織、制度は大きな曲がり角にきているのでは？

- 学生相談は戦後、昭和30年代半ばごろ（1960年ごろ）から。
- 学生相談自体は、現在まで、大きく変わっていない。
- しかしこの間、大学、学生支援、大学外の心理支援も時代とともに大きく変化した。

学生相談のあり方、組織、制度は大きな曲がり角にきているのでは？

- キャパシティオーバー
- カウンセラー増員の限界
- 守秘と連携
- 無料の「心理療法」
- ウェブを活用した現代的な支援
- 他の専門的学生支援との境界

学生相談の現状

これまでの学生相談のイメージ

- ・ 悩み相談、メンタルヘルス、自殺予防などを目的に、
- ・ 悩みを抱えて自発来談する学生に、
- ・ 毎週1回のペースを基本に面談を重ね、
- ・ 信頼関係を築きながら
- ・ 内面の探求を深めていく

学生相談室の役割が分かりにくくなってきた

- ・ 学生の来談が増加し、一人一人にゆっくり関われない
- ・ 学生の気質やニードが変化し、カウンセラーとの信頼関係を築きながら内面の探索を深めていくような伝統的心理支援が必ずしも求められていないと感じることが増えた
- ・ 関係調整、生活スキルや対人スキルに関わる常識的な指導の仕事が増えた
- ・ 学生相談室の役割がよく分からなくなっている

「相談の秘密は守られます」は誰のため？

- これまで「秘密を守ります」「学部の教職員や親には相談について知らせません」と周知
- 学生には、先生や親に伝えて欲しいというニードが高まっている
- 教員や親には、学生のことを教えて欲しい、というニードが高まっている
- 面接室内で語られたことを守秘したいのはカウンセラーだけという不可解な状況が生じることがある。
- 守秘義務は相談活動を支えるベースであるよりも、連携の手続きを複雑化する障壁となることがある
- いったい誰のため、何のための守秘なのか？

誰でもいい、今すぐ

- 相談歴があっても「誰でもいいから、今、話したい」と言ってやってきて、自分のしたい話をして、それで終わり、次回の予約もせず、また煮詰まったときにふらりとやってきて、「誰でもいいから、今、話をしたい」と言ってくる学生が増えている。
- 「今すぐ相談したい」と言い、「今日はいっぱいなので、明日なら予約できる」と案内しても、「だったらいいです」と帰ってしまう学生が増えている。
- 「今すぐ相談したい」と言い、「今日はいっぱいなので、明日なら予約できる」と案内すると、了解して明日の予約を入れるが、その時間には来ない学生が増えている。

現実的で常識的な指導が必要

- 内部の探索、気づきの拡張、信頼関係の深まりなどを特徴とする心理支援とは異なる面接
- 朝が起きられない
- メールに返事ができない
- 約束の時間を守れない
- 対人スキルが乏しい
- 生活スキルが乏しい
- 朝起きる工夫と一緒に考える
- 人に時間を訊く練習、人に道を尋ねる練習
- スケジュール帳の書き方指導

サイコロジカル・マインドが乏しい学生

- 過度に単純な答えを求める学生の増加
- 1ヶ月学校に来ていません。
どうしたらしいですか？
サクッと答えを教えてもらえますか？

メンタライジング能力が未発達な学生

- 自分の気持ちが分からない
- 泣きながら話すので「その涙は？」と訊いても、「別に何も感じない」「ただ目から体液が出ているだけじゃないですか」と言う。
- 今すぐ話しを聴いて欲しいと言うので、「15分だけしか時間取れないけどいい？」と訊くと、いいですと言う。しかしとうてい15分では終わらない話をする。
- 予定の時間が来たことを告げると、「あと5分ぐらい構いません」と言い、とうていあと5分では終わらない話をする。相手の都合も考慮しない。

全体にはおとなしい

- 以前よりも、面接室で暴れる、泣き叫ぶ、物を壊すといった学生が減った
- 精神障害は軽症化
- 「死にたい」と訴えてもがき苦しむわけではないが「別に死にたくないが、生きたくもない」「べつにいつ死んでもいい」という学生が増えた
- 出世したい、欲しい、モテたいなどの欲望は薄い
- 働く意味が分からない、働くイメージがないという学生は増えた

連絡・関係調整の作業の増加

- ・指導教員に思っていることが言えない
- ・もうどうしようもない、死ぬしかないという発言になる
- ・カウンセラーから先生や親に連絡を取ることを提案するとあっさり「お願ひします」と言う。

コンサルテーションの増加

- ・「こういう学生がいます、どうしたらいいんでしょう?」と質問され、何らかのアドバイスをする
- ・その日のうち、あるいは翌日に、メールが来て「やってみました。こういう反応でした。次はどうしたらいいですか?」と質問される。
- ・それが毎日のように続く。
- ・専門家のアドバイスに依存する教員・親が増えた

希望

- ・関わっているうちに内面の探索への取り組みが学生から自然に生じてきたり、学生が変化するのが見えることがあって、一緒に喜ぶことができるような場面もある

悩まない・悩めない
という現象

悩まない・悩めない学生

- ・青年期は「疾風怒濤 (period of storm and stress)」の時期 (Stanley Hall, 1904)。
- ・「青年期は、本質的に平和な成長が阻止される時期であり、かつ青年期の過程において安定した平衡状態が保たれているとしたらそのこと自体が異常である」 (Freud,A. 1958)

悩まない・悩めない学生

- ・「青年が『青年らしさ』を喪失した時代に青年心理学は成立するか?」
- 「青年らしさ」とは「反抗的であり、羞恥心が強く、純情で感傷的で、素直さと攻撃性の両面をもっており、未来に夢と不安を抱き、自我感情が拡大したり萎縮したり大きく動搖し、ロマンチストで空想家であり、根本的に反保守的な理想主義的傾向を持って生きていく」 (西平『青年心理学ハンドブック』1988)

大学カウンセラーの感触

- ・20世紀の終わりごろ～来談学生の印象の変化
- ・自分の問題として苦悩を語り、主体的に取り組み、生産的に悩む姿を見せる
↓
↓
↓
- ・自分の問題として苦悩を語ることができない学生、問題に主体的に取り組むことができない学生、生産的に悩むことができない学生

大学は青年にじっくり悩む時間を与えていない

大学では、「知的・専門技術的な教授研究を行う」正課教育と並ぶものとして、「学生生活の環境的条件を調整するとともに、学習体験の具体的な場面に即して、各学生の主体的条件に働きかける教育指導を行うことによって、その人格的形成を総合的に援助する」

学徒厚生審議会答申（昭和33年）

大学は青年にじっくり悩む時間を与えていない

（学徒厚生審議会答申は）学生の人格形成に対する大学の責任を述べたものであるが、それから40年以上を経た現在に至るまで、この点に対する大学の取組が遅ってきたことは否めない。
(文部科学省高等教育局、2000)

大学は青年にじっくり悩む時間を与えていない

大学における学生支援の重要性はますます高まっている。中でも『学生相談』は、個々の学生に対するこれまでの実践活動の蓄積を踏まえ、学生支援の基盤の一つとして機能することが期待されており、大学においては学生相談体制の充実が急務となっている
(独立行政法人日本学生支援機構、2007)。

大学は青年にじっくり悩む時間を与えていない

大学改革実行プラン（文部科学省、2012）
国立大学改革プラン（文部科学省、2013）

グローバル人材の育成
エンプロイアビリティの育成
・語学力（ほぼ英語力）
・コミュニケーション能力
・プレゼンテーション能力
・ビジネスマナーなどなど

大学は青年にじっくり悩む時間を与えていない

- ・内面から自発してくる曖昧な感覚を感受する能力
- ・他者の意図や動機や感情を感受する能力
- ・それらを適切な人と場所と時間を選んで表現する能力
- ・他者に適切に依存する能力
- ・他者と協同で作業に取り組み、一体となって楽しむことができる能力
- ・分からぬという感覚を抱えておける能力
- ・少々の批判には耐えられる能力
- ・不合理な批判を跳ね返す能力
- ・自分を大事にする能力
- ・世界の不思議への好奇心に開かれている能力
- ・自分のアタマで考える能力

豊かに悩む力を育てる

豊かに悩む力を育てるには

安心感のある環境の保証

- ・外見上の効率低下をいとわない
- ・本人のペースに合わせる
- ・足踏みしてもゆったり構える
- ・周りが焦らず、当人を焦らせない
- ・時間をかけて関わる
- ・悩むことに価値を見出し、お金をかける

豊かに悩む力を育てるには

豊かに悩めるよう助ける（課題）

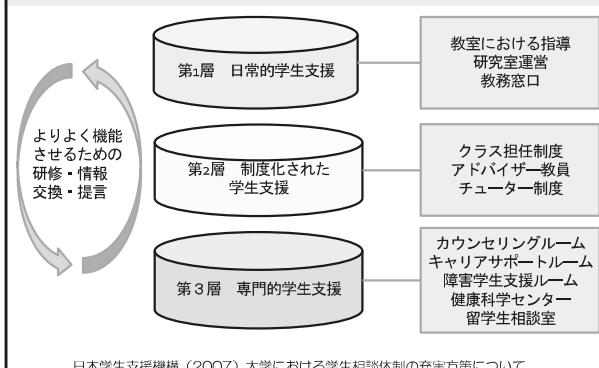
- ・悩むことと逃げることをきちんと区別する
- ・取り組むべき課題を明瞭にする
- ・目標設定を助ける
- ・小さな具体的な目標を設定し、励ます
- ・小さな達成をはっきりと認め、嬉しがって見せる
- ・大きすぎる目標を分割し、適正化する
- ・多様な見方を促す

豊かに悩む力を育てるには

豊かに悩めるよう助ける（関係）

- ・本人の感じていることに関心を寄せる
- ・支援者が感じていることを伝える
- ・関わり、つながりを相互に体感する
- ・関わりを通してともに成長することを喜ぶ

学生支援の3層モデル



大阪大学におけるキャリア教育・支援の取組事例

学生エンゲージメントの観点から

大阪大学 全学教育推進機構 講師／キャリアセンター 副センター長 家島 明彦

大阪大学における キャリア教育・支援 の取組事例



学生エンゲージメント の観点から

家島明彦

大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 講師
(兼) 大阪大学 キャリアセンター 副センター長
キャリア・カウンセラー／ガイダンスカウンセラー／認定心理士

1

はじめに

- 報告者について (自己紹介)
 - 専門、略歴、担当業務
- 大阪大学について (大学紹介)
 - 阪大の概要、就職状況

2

報告内容

- キャリア教育 (授業実践における工夫)
 - 全学部生対象の「現代キャリアデザイン論」
- キャリア支援 (進路・就職相談の動向)
 - 3キャンパスの進路・就職相談室
- ピア・サポート制度
 - 大阪大学キャリアサポーター (Jr.)

3

大阪大学の概要

- 国立大学 11学部、16研究科
- 教職員数 約1万人
- 学生数 約2万3千人
- 予算規模 約1471億円



4

大阪大学のキャリア教育・支援体制

全学組織 (実働は教員1名、職員6名、相談員7名)

キャリアセンター キャリア教育部門 就職支援部門
→兼任・連携教員ばかり
→キャリアアドバイザー (CDA資格を有する契約職員) 7名

教育・学生支援部 学生・キャリア支援課 キャリア支援担当
→専門職員2名、事務補佐員 (非常勤) 4名

各部局 (学部・研究科・センター等による)

就職担当部門 (学生委員会など)
就職担当教員 (学生委員など、持ち回り)



5

キャリアセンター教員 (私) の業務

- 学生の育成
 - キャリアサポーター →内定者のネットワーキング、人脈作り
 - キャリアサポーターJr. →低学年次からのキャリア意識の醸成
- システムの構築
 - 相談のWEB予約 →稼働率・利用状況分析
 - ガイダンスのWEB視聴 →アクセスログ解析
 - 学内担当者ML →学内イベント広報、情報共有
- 支援体制の整備
 - 学内との交渉 →キャリアセンターの体制整備など
 - 学外との交渉 →産学共創キャリア支援体制の構築

6

キャリアセンター事務職員の業務

- ・システム関連
 - ・キャリア、就職関連調査書、各種統計など対応
 - ・就職活動関連システムの管理（就職支援／相談予約／進路報告システム）
- ・イベント関連
 - ・就職・進路ガイダンス、セミナーの企画・立案、実施
 - ・講師担当の各就活会社との打合せ・連絡、調整
 - ・キャリアアドバイザー相談予約の予定管理
- ・求人・インターンシップ関連
 - ・各企業からの求人票、インターンシップ情報のとりまとめ、掲載、学生への周知
 - ・各企業人事部の来訪対応
 - ・インターンシップ学内選考、応募書類とりまとめ、各企業との連絡・調整

7

キャリア教育（授業等）

全学

- ・授業（いわゆる教養科目、キャリア形成教育科目群）
 - ・現代キャリアデザイン論（学部生）
 - ・現代キャリアデザイン特論（大学院生）
 - ・インターンシップ（一般、職場体験型）

各部局（学部・研究科・センター等）

- ・授業（いわゆる専門科目）
 - ・インターンシップ（専門、職業訓練型）
 - ・ゼミ（研究室指導）

8

キャリア支援（就職支援）

- ・進路・就職相談（キャリアアドバイザー）
- ・キャリアサポート
- ・キャリアサポートJr.
- ・就職・キャリアガイダンス
- ・就職支援システム
- ・OB・OG名簿
- ・情報コーナー
- ・キャリア支援図書コーナー
- ・就職活動ガイドブック
- ・阪大就活アプリ
- ・セカンドキャンパス
- ・産学共創キャリア支援イベント
- ・大阪大学キャリアセンター企業ネットワーク

9

**1. キャリア教育
(授業実践における工夫)**

10

授業実践事例

「現代キャリアデザイン論」

- ・全学共通教育科目（先端教養科目）
→いわゆる教養科目
- ・全学部、全学年が対象
→大半は外国語学部1年生
- ・受講希望者（合計）約800名
→阪大で最大の教室（約200名）で開講

11

シラバスに「受講生の声」を掲載

○受講を考えている皆さんへ

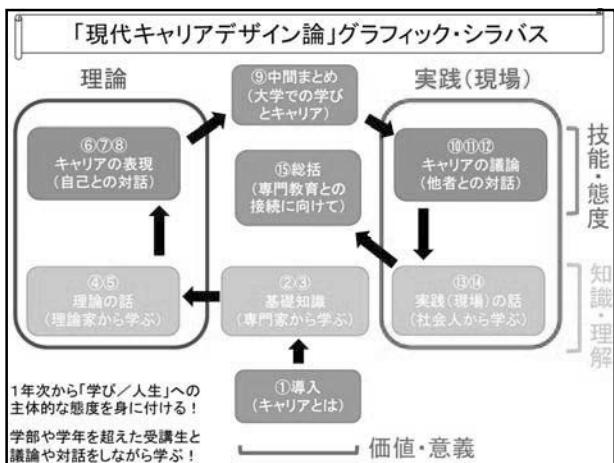
この授業は創造の「ソリューション」を教えることを目的とした授業ではありません。生き方・働き方について（主として心理学や社会学の観点から）学び、大学での学び方を身に付けてもらうことが目的です。高度化・複雑化・多様化・グローバル化する現代社会を生き抜くための知識・技能・態度そして人脈を身につけてほしいと思っています。主体的・積極的に参加して下さい！

○2016年度の受講生が作成した授業プロモーション動画
<https://youtu.be/LPbCvQgYQc4>

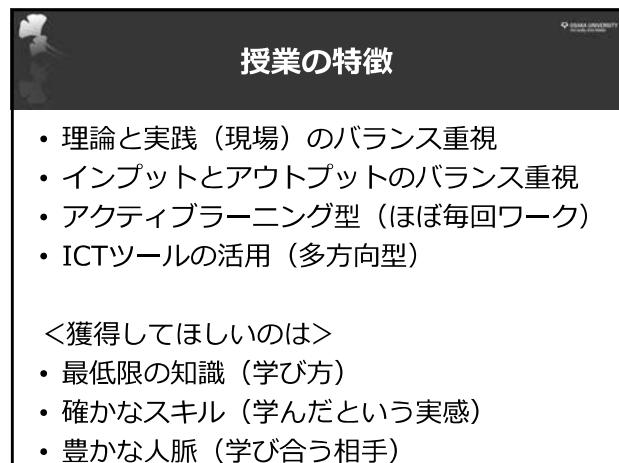
○過去の受講生の声（この授業で学んだこと、今年度の受講を考えている人へのメッセージ）
<https://read2.code.ouj.ac.jp/read/r/36924> (2014年度)
<https://read2.code.ouj.ac.jp/read/r/42635> (2015年度)
<https://read2.code.ouj.ac.jp/read/r/47772> (2016年度)

（以下、2015年度／2016年度の「来年度の受講を考えている阪大生に一言」を転載）
<2015年度>
「考えるきっかけをくれる授業です。ただ知識を得るというだけなくより深い学びへと誘ってくれます。」
・キャリアという抽象的なイメージに具体性がうまれる講義です。この授業で考える時間はとても有意義で出会いも多い授業です。
・キャリアを、将来を、自分で考えるのはもちろん、多くの人が同じ時間を共有して考える機会は少ないもの。その貴重な機会を傳れる面白い授業です。おすすめします。
・グループワークが多く友達がたくさんできます。一般教養の中で一番面白い授業でした。

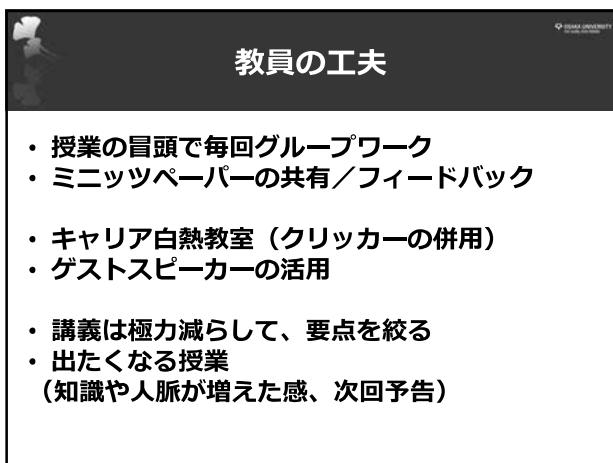
12



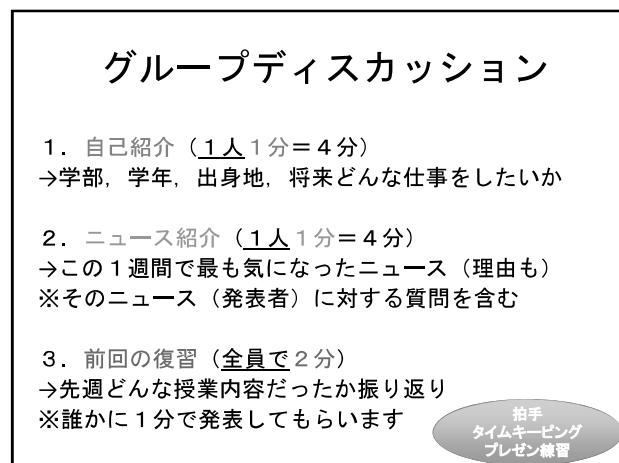
13



14



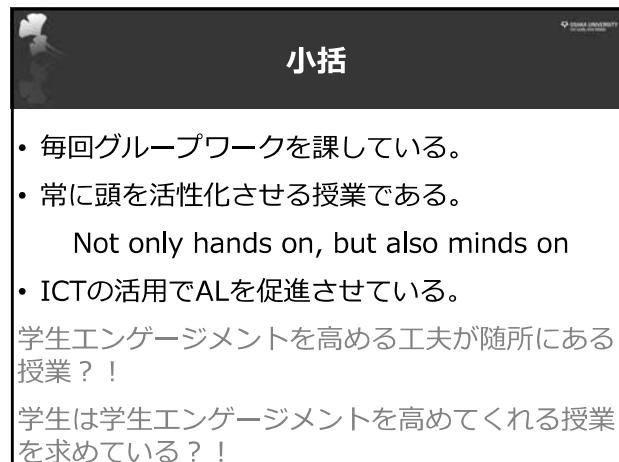
15



16



17



18

2. キャリア支援 (進路・就職相談の動向)

19

進路・就職相談

全学の相談窓口

キャリアセンター（就職支援部門）

- 進路相談、就職活動全般の相談に応対
- キャリアアドバイザー（CDA）7名が曜日ごとに交代勤務
- 相談室は、豊中・吹田・箕面に各1室ずつ計3室
- 学生はWEB予約システムから相談室を予約

※括弧内はH28年度実績

- 合計3,150件 相談室稼働率（年間平均）79% (2,931件 (72%))
- 豊中 1,118件(1,073件)、吹田 1,090件(1,060件)、箕面 942件(798件)

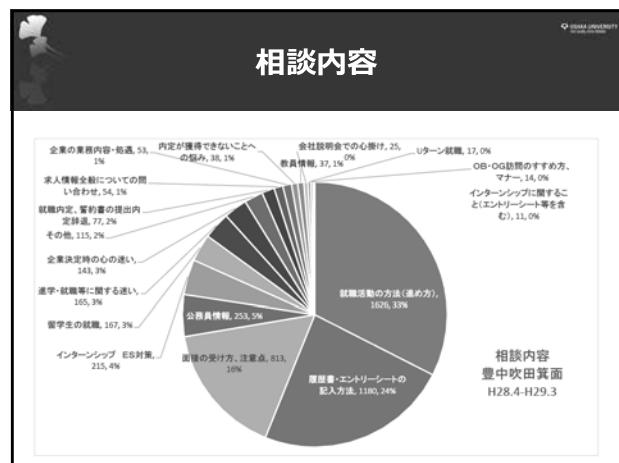
各学部・研究科

就職担当部門、就職担当教員

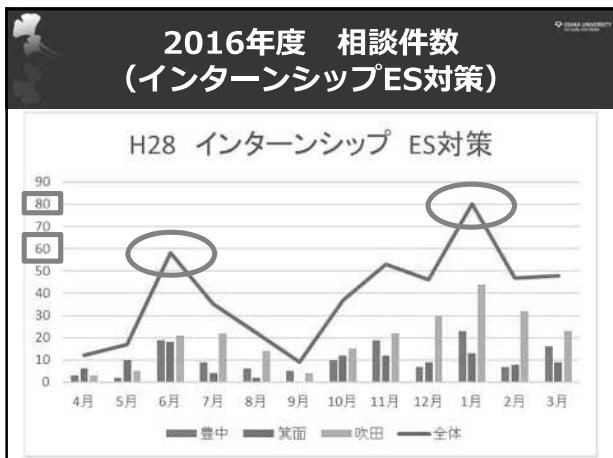
20



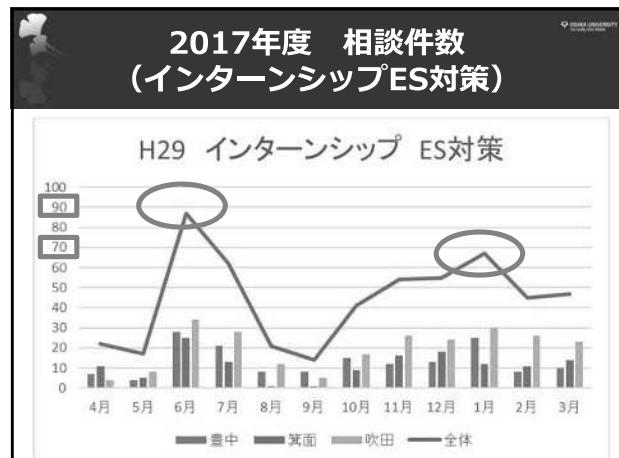
21



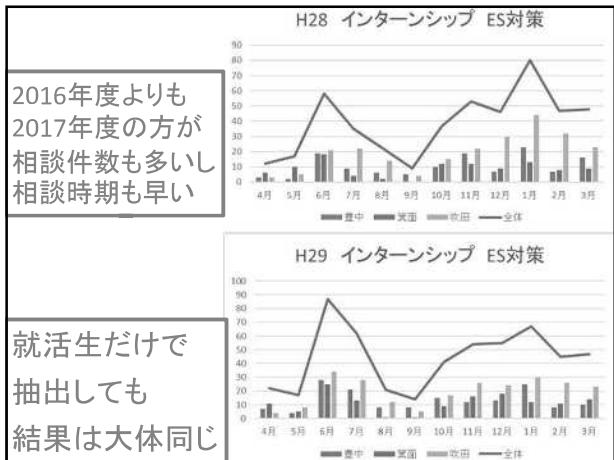
22



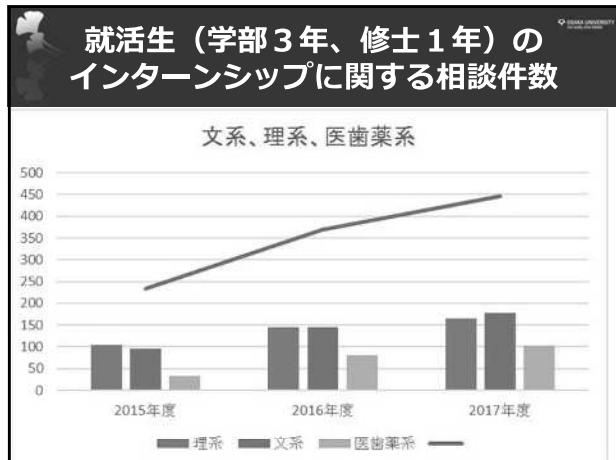
23



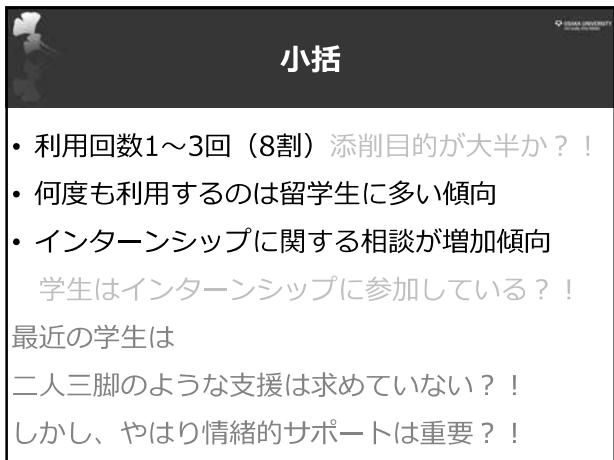
24



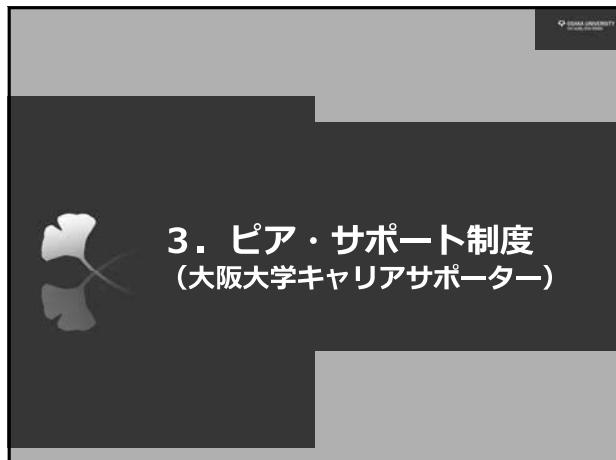
25



26



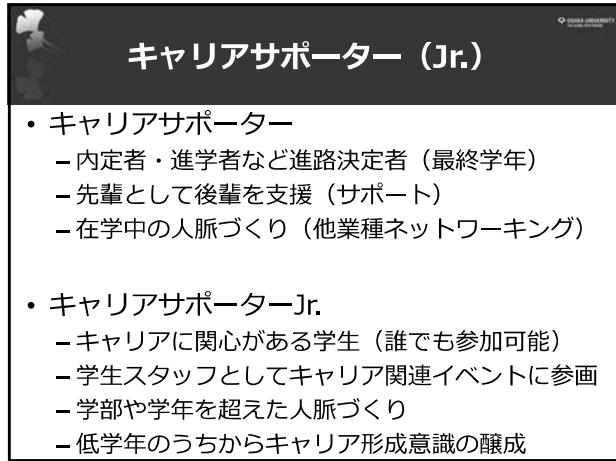
27



28



29



30

キャリアソポーターの活動

公式Facebookページ

大阪大学キャリアソポーター
@OsakaU_CareerSupporter

生協機関誌でのPR

This is KOAN
阪大の学生が運営する学内報紙

31

キャリアソポーターJr.の活動

ステップアップ講座の企画

阪大生のためのステップアップ講座①

日時 / 4/26(木) 16:30 - 18:00 豊中

会場 / サイエンス・スタジオ A

内容 / タイムテーブル

- 16:30 - 16:45 キャリアソポーターによる自己紹介
- 16:45 - 17:00 アクティビティによる自己紹介
- 17:00 - 17:15 フリートーク
- 17:15 - 17:30 研究室アピール
- 17:30 - 18:00 質疑応答

参加申込はコチラから
<https://jp.surveymonkey.com/r/NSYV2>

QRコード

お!気になる... どんな講座なんだろう?

32

キャリアソポーター (Jr.)

- メリット (効果)
 - 学生の自発的な成長意欲を支援できる
 - 先輩が後輩を支援する仕組みができる
 - 学生は縦&横のつながりを形成できる
- デメリット (限界)
 - 顧問教員の関与度合いが難しい
 - 自主性に任せ過ぎると行き過ぎたり衰退したり
 - 別の目的を持って入会してくる者も出現

33

小括

- 意欲的で活動的な学生が集まる
- 他の学生をどう巻き込んでいくかが課題
- 放置し過ぎると消滅してしまう可能性

学生エンゲージメントの視点を持つた
教員の情緒的・情報的サポートが重要？！

34

総括

- 現代大学生の特徴！？
成長意欲を持つつも、アウトプットの仕方を
知らない、自分ではどうしてよいか分からぬ
そういう学生のために
- キャリア教育・支援においても
学生エンゲージメントの視点を持った
教職員の情緒的・情報的サポートが重要
かもしれない

35

報告書で全スライドを掲載予定
でしたが、紙面の都合上、無理
だったので、詳細が必要な人は
個別にメールください。

akihiko.ieshima@gmail.com

36